

## 令和7年度第1回守山市図書館協議会 議事録（要旨）

- 日 時 令和7年5月28日（水）  
開会時刻 午後2時00分  
閉会時刻 午後4時00分
  
- 場 所 守山市立図書館 多目的室
  
- 出席委員等  
会 長 岸 本 岳 文                      副会長 佐 伯 一 惠  
委 員 小 村 みゆき                      委 員 久 米 輝  
委 員 寺 井 信 義                      委 員 梅 景 敬 子  
委 員 村 瀬 幸 子                      委 員 浅 田 紀代子  
委 員 真 弓 美矢子                      委 員 高 橋 重 雄  
委 員 原 田 幸 子                      委 員 今 関 信 子
  
- 教育長および説明員  
教育長                                      辻 本 長 一                                      教育部長                                      神 藤 高 敏  
教育部次長                                      中 野 浩  
図書館館長                                      西 村 克 子                                      図書館副館長                                      佐 藤 志 歩  
図書館管理係長                                      天 谷 真 彦                                      図書館管理係主任                                      生 田 奈 津 実

## 1 開会

### <事務局>

本日は、公私何かとご多用の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、令和7年度第1回守山市図書館協議会を開会させていただきます。

## 2 会長あいさつ

こんにちは。3月に令和6年度第3回の図書館協議会を開催しまして、年度が変わりましたが委員はそのまま同じです。前は、松本館長が退任のごあいさつをされました。今日は、4月になって新しく館長になられた西村館長のもとでの最初の図書館協議会ということになります。

西村館長は以前から知っていますので、安心はしています。守山市立図書館の中で一番経験の長いベテランの方が館長になっていただいて、これまでの経験を生かして経営をしていかれると思います。また、これまでの館長さんのもとで仕事をする中で、自分だったらこんなふうにしたいと考えたことがいっぱいあると思います。ぜひ、それを館長になって実現していただきたいと思います。図書館協議会の委員の皆さんも新館長のこれからの仕事を応援し、支えていただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

## 3 教育長あいさつ

皆様こんにちは、教育長の辻本でございます。

本日は、大変ご多用の中、守山市図書館協議会にご出席賜り誠にありがとうございます。

また平素より図書館運営、読書活動推進につきまして多大なご支援、ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

昨年度は、「いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本」という基本理念の実現をめざし、委員の皆さまと協議を重ね、「守山市子ども読書活動推進計画第4次計画」を策定させていただくことができました。この計画をしっかりと推進していくことが非常に大切だと思っております。

本計画にもとづき、家庭や地域、校園、市立図書館が連携して、子どものための読書環境づくり、本に親しみやすい場づくり、子どもと本をつなぐ人づくりを推進し、読書に親しみ豊かな人生を送ることができる、子どもたちの育成に努めてまいります。

また、おかげをもちまして令和6年度の貸出冊数は約112万冊と5年度を上回る実績を記録し、本館・北部図書館とも多くの市民、市外の皆様にご利用いただいております。

今年度4月からは、館長が交代しました。館長にはしっかりとリーダーシップを発揮してもらいたいと思っております。また、これから市全体でしっかりと持続可能な図書館運営の体制をつくっていきたいと考えております。

今回の図書館協議会では、前回の図書館協議会以降の業務の進捗状況や、今年度の活動計画、守山市子ども読書活動推進計画第3次計画令和6年度の実績等をご報告させていただきます。

今年度、図書館におきましては、図書館サポート隊イベント等の通常の各種講座やお話

会の開催に加えて、今村翔吾氏の中学校での講演会、北部図書館での子ども司書講座のような新たな行事のほか、子どもにとって安心な居場所づくりとして6月から集会室の開放やより多くの方に利用していただけるよう学習コーナー2部制の導入などの事業展開がございます。本が好きと言える市民にあふれ、より広く深く読書に関わることができる「読書日本一のまちづくり」の実現に向けて取り組んでまいります。

今年度も、本好きな子どもたちや、市民を増やし、読書日本一のまちづくりにつなげていくことができるよう、委員それぞれのお立場からご意見をお伺いできればと存じます。

昨年度、私も図書館友の会の活動に少しばかり参加させていただきました。いろいろなお知恵を拝借して、それが少しでも実現できればと思っていますし、意義あるものにしたいて考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 4 事務局職員紹介

##### <事務局>

続きまして、本日出席しております職員の紹介でございます。

##### <事務局>

本日の協議会でございますが、会議の成立要件である委員の半数以上がご出席いただいていることを、ご報告させていただきます。

それでは議事に入らせていただきたいと思います。

これよりは、守山市図書館協議会規則第2条第3項により、会長に進行をお願いしたいと存じます。岸本会長よろしくお願いたします。

#### 5 議事

##### (1) 報告事項

##### <岸本会長>

それではお手元の次第に従いまして、本日の協議会の議事を進めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

報告事項の前に、新しく館長になられたので、少し抱負などを聞かせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

##### <事務局（西村館長）>

4月より館長になりました、西村です。よろしくお願いいたします。

図書館協議会の中には、市立図書館に配属になった頃よりお世話になっている方もおられ、心強く思っております。

新図書館の整備に係る仕事を通して、司書としての意見を行政の中で直接説明する機会が増え、様々な課題と一緒に協議することで市役所と図書館との距離が近くなったと感じています。また、市役所職員とのつながりが密になったことで、相談しやすい関係を築くことができました。

現在の図書館は、旧館時代とは比べ物にならないほど面積も利用者も大幅に増えました。

これまでの運営を引き継ぎながらも、昨年度も子ども読書推進計画で議論していただいたように、どのようにしたら、本に関心がない方にも読書の楽しさを知らせることができるか、子どもたちにお話が届けられるかなどを、常に職員とともに考え、様々なことを試しながら、読書日本一のまちづくりを行っていきたいと思います。

今後よろしくお願ひいたします。

<岸本会長>

ありがとうございます。いまの気持ちを忘れずに、これから頑張ってくださいと思います。

では、報告事項ア「令和6年度守山市立図書館業務報告および利用状況について」、事務局より説明をお願いいたします。

<事務局>

資料に沿って説明【資料1】

<岸本会長>

ありがとうございます。ただいまの説明について、ご意見ご質問があれば挙手をお願いします。

<高橋委員>

図書館をよく利用させていただいています。読書通帳を利用したのですが、印刷機がたまたま薄かったのか、上手に印刷してくれないことがしばしばあります。職員に尋ねましたが機械のことなので対応が難しいようでした。来館時に持参して印刷しようとするのですが、「今日は利用できません」という貼り紙がしてあることもあります。読書通帳という制度はとても魅力的なので、せっかくですから預金通帳のように以前に借りて返却した図書も履歴としてまとめて記帳できるようになれば、機械の調子が悪くて印刷できなくても、後日まとめて印刷できると思います。あわせて読書通帳をペーパーだけでなくアプリのようなデジタル化はできないでしょうか。いま、読書通帳は有料ですが、デジタル化しますと紙代も要りませんので無料で提供できます。検討していただきたいと思います。

おはなしボランティアが不足しているということですが、おはなしボランティア養成講座について詳しく教えてください。

<岸本会長>

まず、おはなしボランティアについて、事務局から回答をお願いします。

<事務局>

おはなしボランティア養成講座は毎年開催しております。講座に参加していただいた上で、ボランティアに登録していただきます。たくさん活動して下さっている方もおられますが、もう少し人数が増えていければと考えているところです。

<岸本会長>

続いて、読書通帳についてお願いします。

<事務局>

読書通帳については、たびたび不具合が生じておりまして、申し訳ございません。軽微な事象としましては、IC タグの読み取りエラーなどで機械が止まってしまうというものがございます。これについては、機械を再起動すればすぐ直るものです。

ただ、機械については平成 30 年に複数の自治体で共同調達をしておりまして、すでに 7 年近く経過していることから、老朽化による不具合が生じているものです。これについては来年度、更新を行う予定です。

記帳については、貸出中の図書データが 6 週間保存されておりますので、その間をお願いしているところです。貸出履歴については、読書・思想の自由に関わる情報ですので、図書館としては、これを無期限に残しておくということについては危険と考えており、一定期間経過後、意図的に削除しているものです。

読書通帳につきましては、市内在住の中学生以下の方は無料、それ以外の方は 1 冊 320 円でご利用いただいております。

デジタル化につきましては、草津市が貸出アプリを導入しております。しかし登録があまり伸びていないと聞いております。ニーズについて、今後の調査が必要と考えております。

<岸本会長>

ありがとうございます。他に意見はございませんか。

利用状況について、いつも気になっていることがあります。本館の貸出人数が前年度比で 1.7% 増えていますが、貸出冊数は減っているという現象です。1 回あたりに借りられている冊数が減っています。

他の図書館を見ても貸出人数が増えていても、冊数が増えていないという現状は共通しています。原因を分析していきながら、貸出冊数が増える工夫をしていただきたいと思います。

<岸本会長>

ありがとうございました。

続きまして、報告事項イ「守山市子ども読書活動推進計画第 3 次計画令和 6 年度の実績について」、事務局より説明をお願いいたします。

<事務局>

資料に沿って説明【資料 2、3、4、5】

<岸本会長>

ありがとうございます。

ただいまの説明について、ご意見ご質問があれば挙手でお願いします。

#### <岸本会長>

特になければ、園、小学校中学校の状況について各委員からお話しただけだと思います。

#### <小村委員>

こども園においては絵本室や絵本のコーナーがあり、日頃の生活や遊びの中で絵本に触れる状況は整っていると思います。私自身は今年度に園を異動しました。いろいろなクラスを見る中で、0歳児でも絵本を手にとって一緒に見たりしています。絵本は人と人をつなぐものだと改めて実感しています。私たちにとって絵本は身近ではあるのですが、身近すぎて意識できていない部分があるかもしれません。本の入れ替えや設置場所の工夫など、意識して考えていくことも必要だと思っています。

#### <久米委員>

小学校について申し上げます。本校の取組を中心にお話しさせていただきます。

北部図書館に近いという立地を最大限に活用しております。昨年は、学校として北部図書館に行く時間を確保することを目標にしまして、1学期に達成することができました。また、2年生、6年生は2学期の間にも複数回、学級単位で北部図書館を利用しました。多くの学年が年間を通してかなりの回数、図書館を利用しました。今年度はそれをベースにしながら、さらに発展させた活動をしていきます。小学校の活動と北部図書館の催し物のタイアップのほか、学校文庫の代わりとして図書館の本を一定期間お借りしています。これをブックトラックに載せ、各学級に移動させて読めるようにしています。こうした取組を積み上げながら、北部図書館との連携をより深めたいと思います。市内の学校の図書館部会でもこの話をしました。各学校によって条件は違いますが、工夫して進めてほしいとお伝えしました。

#### <寺井委員>

昨年も委員でしたので、中学校でしっかり取り組みますと発言しました。中学校としての取組を、いくつかご報告させていただきます。今年度から学校図書館の放課後開館を始めました。学校司書の勤務によるものです。新1年生のオリエンテーションに全クラスに校長として同席し声かけをしました。また、職場体験として北部図書館へ行かせていただいております。私も生徒の活動を見に行きました。生徒の一人ひとりであった仕事を用意してくださっていて、とても楽しそうにしていました。北部図書館まで少し距離はありますが、利用のきっかけになったのではないかと感じています。

そして、今村翔吾さんの講演会につきましては、昨年度、前館長から市内4中学校を対象にするとお聞きしまして、本校についても日程調整をさせていただきました。今年度から教員としても学校図書館への取組が活発化しております。少しずつ、「守山市子ども読書活動推進計画第4次計画」の目標に近づけるよう、努めて参ります。

また、校長同士で学校図書館について意見交換をしますと、守山中学校は校舎の中で、

学校図書館がとてもいい位置にあると聞きました。市内4中学校の中でも、お互いを参考にしながら、これから連携していきたいと思います。

<梅景委員>

高校の学校図書館です。県立学校ですが守山市にとっても協力していただいている、今朝も読み聞かせに来ていただきました。生徒たちには非常に好評で、アンケートによると7割以上の生徒がよかったと回答しています。今後もよろしく願いいたします。今年度、新しく設立された学科の生徒たちは、守山市で学ばせていただくことになっております。北部図書館とは昨年度からいろいろ交流させていただいておりますが、新学科においてもこれから協力をお願いしたいと考えているところです。

また、学校の授業以外での平日に1日10分以上読書している児童生徒の割合につきましては、昨年度の調査依頼が県の方に届いておりました。市町村にも届いているのではないかと思います。滋賀県教育委員会の方で回答のデータをお持ちなのではないでしょうか。

<岸本会長>

調査依頼の回答については事務局で確認しておいてください。【※滋賀県で調査している中にありました。】

<辻本教育長>

いま、委員の方から学校・園の状況をお話しいただきました。学級文庫の充実に関しましては、今年度は図書館としての予算をつけることができませんでした。しかし、学級の身近にある本を通して、教員が生徒に対して働きかけをしていただけるとありがたいと思っています。他の小学校、中学校の状況についても、わかる範囲で教えていただきたいと思います。

<久米委員>

お答えします。学級文庫の状況については、私が一昨年までおりました前任校の事例で言いますと、備え付けの学級文庫が非常に古く、児童はなかなか手にとらない状況にあります。学級文庫用の予算をつけて図書の買替をしなければ、これを改善することはできません。学校予算としての図書費は、学校図書館の蔵書を充実するために使われているものです。図書費を学級文庫のために分配するかどうかは学校の状況によりますが、ある学校では、教員が自費で学級文庫を補充していたということも聞いています。教員が中古の本を安く買ってきて置いたものが、とても人気だったそうです。児童のニーズに合わせて本を選んでいただきたいと思います。

学級文庫のために予算をまわすという意識を持たないと取組を進めることは難しいと考えています。図書館部会においても話題に出しながら充実を図るように機運を高めたいと思っています。

<辻本教育長>

ありがとうございます。予算をつけられなかったことは残念ですが、まずは先生方が工

夫して取り組まれていることを把握することが大切だと考えておりますので、今年度はしっかりと現状分析を行っていきたいと思います。

<岸本会長>

心強い教育長のお言葉をいただきました。学級文庫は、図書館に比べると少ない冊数ですけれども、子どもたちが喜んでそれを利用しているということに関しては、そこに置かれている本に、選んだ方の気持ちが表れていて、子どもたちにそれが伝わっているのではないのでしょうか。これは地域の子どもの文庫でも同じだと思います。単に本が並んでいるのではなくて、思いが込められて選ばれた本があるということが大事なことなのだと思います。そうした文庫を整備していただきたいと思います。

<寺井委員>

中学校については、全クラスで朝読書をしていますので、生徒自身が本を持ってくるのです。持ってこなかった生徒には、学校図書館の本を用意しています。ですので、学級文庫という形ではありません。学級文庫については、教室に本棚があるかどうか大きいと思います。ただのロッカーに本を並べている学校と、本棚に置いている学校とでは利用が変わってくると思います。

学校図書館の本の選定については、書店に協力していただいて、授業で利用できそうな本を、図書館主任だけでなく教員全員で選んでいます。学級文庫用の予算はついていませんが、それも踏まえて選定しています。本来は学校図書館用の予算ですが、学級に本を持っていくとなかなか学校図書館に本が戻ってこないのです。ですので、本の入替はあまりできていません。学級文庫用の予算をつけてもらえれば、それに越したことはありません。教室に本棚があつて、そこに本が入れられると学級文庫らしくなりますので、なお良いと思います。

学校図書館の放課後開館については、今年度初めて実施します。毎日ではなく、隔日開館になります。開館日がわかるように工夫しています。しかし利用している生徒は特定の層に偏っている印象です。中学校は部活に入っている生徒が多く、文化部や部活に入っていない生徒が中心に利用しています。放課後開館の場合、借りる返すことについては便利になったと思います。人員体制の問題もあり、毎日開館は難しいと思いますが、現状で様子を見ていきたいと思います。

<岸本会長>

本棚に関しては、段ボール箱などで工夫して展示をすることもできます。そうした展示の講習会があつてもいいと思います。

<高橋委員>

子ども読書活動推進計画においては学校図書館が重要と思いますが、市立図書館においては平日の利用については、乳幼児の親子連れが最大の利用層ではないのでしょうか。市立図書館は親子のための図書館ではないかと思うほど、大人のコーナーよりも児童書のコーナーの方が利用の回転率が高いのです。資料2の指標と現状値を見ますと、市立図書館に

おける0歳から12歳の市民1人あたりの児童図書館の年間貸出冊数については、目標をクリアしています。この数値は親が借りた冊数も含んでいるのでしょうか。

#### <事務局>

(団体貸出を含めた)児童図書館の年間総貸出冊数を0歳から12歳の市民人口で割っているものです。

#### <高橋委員>

ありがとうございます。読書習慣については、12歳までへのアプローチが大事ですので、特に親子さんが絵本に親しまれるようなイベントを企画していただいて、そうすることによって13歳以降の自主性に任される頃までに、経験されることが重要だと思います。シャワーのようにたくさんの本に触れて、読書って大事、楽しいという実感が12歳までに培われると、13歳以降の数字も少しずつ伸びてくると思います。おはなしボランティアの養成については、絵本の読み聞かせに焦点を絞って取り組んでいただけると、子どもたちにとってもっと楽しく読書習慣が根付くと思います。絵本の読み聞かせは、普通の読書と違って10数ページで終わるものがほとんどですので、読みやすいですし、親子で楽しめるものですから、絵本を通して読書習慣が身に付くように、まずは絵本の読み聞かせに関するアプローチを市立図書館として強めていただきたいと思います。学校現場では教員の方々が、市立図書館では司書の方が努力されていると思います。親子のニーズに合わせて、絵本の読み聞かせについては大きい会場ではなく、たとえば集会室でブースをいくつか区切っておはなしボランティアの方が数組の親子に対して、少人数での読み聞かせイベントをつくっていただけたら平日来館される親子さんの利用も増えるのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

#### <佐伯委員>

私も絵本が大好きです。図書館に来て絵本を探すことが多いのです。その時に見てみますと、若いお母さんお父さんが絵本をいっぱい借り、午後3時になると子どもさんと一緒に、「おはなしのいえ」でのおはなし会に参加されます。おはなしボランティアの方々も上手に読み聞かせをされるのです。私も聞き入りながら、参考にさせてもらっています。おはなし会には、赤ちゃんもお母さんも高齢者も参加されています。図書館における絵本の読み聞かせの場がしっかりとあって、継続的に実施されているのは、とてもいいことだと思っています。

#### <原田委員>

おはなしボランティアをしています。本館では水・金曜に、北部では火曜に、午後3時から、開館日は必ずおはなし会をさせていただいています。私は、お母さんの時代からある絵本、季節の絵本を読ませていただいています。ボランティア自体はとても楽しいです。私自身は5、6年くらいさせていただいていますが、毎年、ボランティア養成講座を受講されて、新しいボランティアさんが徐々に増えていると感じていますし、皆さん熱心です。おはなし会は読み手と補助の体制で担当をします。

最初の頃、保護者の方はスマホを触ったりしながら、子どもさんに参加させている人も多かったのですが、最近は保護者の方自身も楽しんで聞いてくださっています。季節の絵本を読もうと思うと、おはなし会の2、3日前に絵本を集めようと思っても絵本がないのです。クリスマスであれば、その3週間前から絵本を確保しないと、直前に探してもすべて貸出されていて絵本が確保できないという状態です。守山市のお母さんたちは、絵本の読み聞かせに関しては非常に熱心だと思います。

私の場合は、小学校のおはなし会にも行かせていただいておりますが、やはり学級文庫の本は古いと感じていました。小学校のボランティアでは謝礼をいただきますが、その謝礼で図書を買って学校に寄付をしています。子どもたちはおはなし会が好きなのですが、小学校の都合上、朝は15分程度しか時間がなく、ボリュームのある絵本を読むことができません。朝ですので、軽めの楽しい感じの絵本を2、3冊読むようにしています。基本的に、低学年に対しておはなし会を行っています。また、出前おはなし会として、保育園にも行かせていただいております。保育園の子どもたちはリアクションがよく、おはなし会のボランティアをしていて楽しいです。守山の子どもたちは、おはなしを聞くのがとても好きなのだと思います。おはなし会の前は絵本を読みこんで、ページのめくり方や絵本の位置等も気にしながら練習に取り組んでいます。

それから、図書館に関しては、ほほえみセンターと隣なので、センターのイベントと提携して本の提案をするのはどうかと思っています。ベビーマッサージや離乳食の講座等のイベントで関連した本が紹介できれば、図書館への利用が促進できるのではないかと思います。

#### <岸本会長>

ありがとうございます。湖東町立図書館（現東近江市）の初代館長であった澤谷としさんの文章を読みました。そこで、湖東町から東京の大学に進学した学生さんが帰省した時にしてくれた話を紹介していました。友人が子どもの時に読んだ本の話をするのですが、自分は1冊もわからなかったというのです。その学生さんが子どもの頃は町に図書館がなく、児童書を読む機会がなかったのです。町に図書館ができて、今の子どもたちは幸せだと言っていたということです。東京に行ってはじめて、図書館があることとないことの違いを実感したのだそうです。子どもたちに読書の体験をしてもらう場を提供していくことがいかに大切かということに改めて考えさせられました。

#### <今関委員>

私がロンドンで暮らしていた時に体験したことですが、学級文庫の作りかたがとても面白かったので紹介します。1か月に2回、近くの図書館の分館に本を借りに行きます。子どもたちが好きな本を選んで持ち帰り、それを学級文庫にするというものです。ですので、いつも新しい本が学級に並んでいるわけです。これを守山市におきかえると、学校図書館に本を借りに行くと学級文庫を作れば、学校図書室の蔵書が空になるように思います。ロンドンの場合はそれができるだけの本が分館にあったということです。たいていの小学校からは歩いて15分程度の距離に分館があり、そうでない場合はスクールバスで中央館に行くことができます。ロンドンの人たちは、生活の中に図書館が根付いているのです。自

分の子どもたちはそうした体験によって、勉強をしているときに気になることがあったらすぐ本を手にとっていました。単元が学級文庫を作りだしているように思いました。

日本子どもの本研究会が発行している月刊誌『子どもの本棚』に書いてあったことですが、「読んでもらったところから自分一人で読む」という本のリストや体験記など掲載されていました。子どもが自分一人で読めるようになる、自分一人で本を選ぶ力をつけていくことが大切なのだと考えている大人がいるのだなと感じました。何歳になっても読んでもらうのを聞くのは楽しいものですが、それだけではなく自分でも読める機会をつくっていくことも必要ではないかと思います。私自身の体験ですが、調べなければならないことができて、本当に図書館にお世話になっています。知らないことを調べるのはとても面白いのです。調べる面白さを子どもの頃から体験してもらえたらと思います。

<岸本会長>

学級文庫のお話を聞いて、とても大切なことだと思いました。これをどう作っていくかということと併せて、子どもたちがどう学級文庫とかかわっていくかということも検討していく必要があると思います。ぜひ守山市としても取り組んでいただきたいと思います。

<岸本会長>

続きまして、報告事項ウ「令和7年度守山市立図書館運営方針および活動計画について」、事務局より説明をお願いいたします。

<事務局>

資料に沿って説明【資料6】

<岸本会長>

管理係と運営係はそれぞれどのような仕事をしているのでしょうか。

<事務局>

管理係は、修繕や業務委託など、施設全般の管理を行っています。運営係は、おはなし会や行事等の図書館のサービスに関わる仕事をおこなっています。ただし、カウンター業務は司書全員で担当していますし、両係で共通している業務もある程度あります。

<今関委員>

学習コーナーが2部制になったということが気になっていまして、予約しないと利用ができないのかと思っていましたが、集中する時間帯だけ予約制で、それ以外の時間は空いていれば、いつでも利用できるという聞いて安心しました。

<岸本会長>

他に、全般的なことでご意見がありましたらお願いします。

<村瀬委員>

地域で赤ちゃんサロンをやっています。月に1回、図書館から本を2ケース借りています。高齢化でやめようかという話もありましたが、守山市子ども読書活動推進計画の基本理念に「いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本」とありますように、図書館から借りてきた本を楽しみにしている親子が何組もおられて、ぜひとも続けていきたいと思いました。図書館の職員さんに本を選ぶのを助けていただいておりますので、感謝しております。カウンターで本の場所を尋ねますと、すぐにその本を用意していただきました。職員の方々が笑顔で対応してくだるので、大変うれしく思っております。

学校については読書タイムの時間に、月1回15分間、地域から語り部として学校に行くのですが、子どもたちは本当に真剣に聞いてくださるのです。学校の先生も忙しいと思いますが、一緒になって聞いてくれる先生もいれば一生懸命作業している先生もいらっしゃいます。できれば、先生も一緒になって本を読む楽しさを味わってほしいと思っています。なかなか直接には言えませんが。

#### <久米委員>

村瀬委員のおっしゃるとおり、読書タイムの時に担任が本を読んでいないと児童も読みません。本校では、昨年まで読書タイムは週1回でしたが、今年度から、時間が短くても毎日読書時間を確保しています。その時間は全員が読書するということを徹底しています。私も含めて教員全員が、児童と共に読書に取り組んでいます。その成果をまた報告させていただきたいと思います。

#### <岸本会長>

久米委員からもお話がありましたので、村瀬委員にはぜひ次回は子どもたちのためにおっしゃっていただいたほうがいいと思います。

#### <真弓委員>

滋賀県子ども文庫連絡会として毎年、その年度に新しく刊行された絵本を集める会を開催しています。図書館で借りる分もあります。偶然だとは思いますが、他の図書館にあっても、守山市立図書館で所蔵していないという本が多いのです。新刊書がないということは、資料費が減っている傾向にあるのでしょうか。新しい本がいい本というわけではありませんが、新しい本も入れていただいた方がいいとは思っています。

#### <岸本会長>

一つは本の購入ルートの問題があると思います。新刊書を注文してからどれくらいで入荷するかは、購入ルートによって変わってくるのです。図書館によっても調達方法は違います。新刊書を検索したときに、まだ所蔵されていないということは、そうしたことが原因の場合もあります。

#### <真弓委員>

いつも年度末に開催しているのです。ですので、その年度に出た本の多くは、刊行され

てからある程度の時間が経っています。今年度は特に所蔵がない絵本が多いと感じました。

それから、私はとしょかんかざり隊！の活動もしています。そのほとんどは折り紙作品です。たくさんの方が参加してくださっています。小さい頃は折り紙が好でも、長じると興味は他のことへ移ってしまう場合がありますが、昨年度の後半に2回、中学生が参加してくれました。他にも小学6年生も参加してくれたことがあります。小さい頃からずっと折り紙が好きな人が、小さい子たちと一緒に楽しんでくれています。折り紙は、日本の伝統文化ですので、大人になっても親しんでいってほしいと思います。

<浅田委員>

図書館を母体にした守山読書連絡協議会として活動していました。最盛期は8グループの読書会があり総勢70人近くいましたが、高齢化により現在は2グループになり、協議会としての活動を維持することができず解散しました。以前は、読書会用のテキストを図書館から借りていましたが、私の所属する「くちなし」グループも自然解散になってしまいました。残念に思っています。運転免許も返納しましたので、自分で図書館に来て本を借りて読むということがとても大変なことになりました。図書館に来る時は、もーりーカーを利用していますが、以前のように気軽に図書館に来ることはできません。

<岸本会長>

守山市内に読書会グループはなくなってしまったということでしょうか。

<事務局>

読書連絡協議会には加入されていませんが、市内の読書会グループが新規に利用登録をしたという事例はいくつかあります。また、古文書愛好会などの団体がございます。

<岸本会長>

今後も自主的に活動するグループが増えていけばよいと思います。高齢者へのサービスについては、今後しっかり議論していかなければいけないと思います。

<今関委員>

私の友人にも浅田委員と同じ悩みを持っている人がいます。高齢者で図書館が好きなのに図書館に来られない人がいるということをお伝えしたいと思います。

質問ですが、資料6の3頁目、おうみクラウド協議会とはどのようなものでしょうか。

<事務局>

8自治体が加盟していて、コンピュータ等を共同調達するための協議会です。

<今関委員>

ありがとうございます。

また、学校の工夫について申し上げます。以前は学校によく寄せていただくことがあり、滋賀県内の学校の取組を見せていただいていたいました。ある学校で、休み時間に先生方が自

分のコーナーを持っていて、本だけではなく理科の実験をするなど、それぞれの先生が得意なことを学校中でしているという取組がありました。図書館協議会では本や読み聞かせの話題が中心になっていますが、学校には個性をお持ちの先生がたくさんおられますので、その個性が光る学校であればいいと思います。それぞれの学校で工夫をしていただきたいところです。

#### <佐伯委員>

新館長の話を聞いて、昔のことを思い出しました。図書館運営について揺れ動いていた時代に、私自身も館長として着任し、そこから学んだことがたくさんあります。岸本会長にもたいへんお世話になりました。大変な時に、みんなで支えてあって動いたことが、今につながっていると感じました。私も、まだもう少し図書館協議会に関わっていきたいという思いになりました。

今の図書館はとても居心地がいい場所だと思います。いつ来ても人があふれています。様々な世代の居場所になっていると思います。図書館がどんな人にとってもいい場所になるように、子どもたちに向けて集会室を開放することもいい取組だと思います。

守山市立図書館の蔵書は多いですが、読みたいと思った本が所蔵していないこともあります。そうした場合は、県内の図書館で所蔵しているところを検索することができます。それでも見つからなければ、リクエストを出すと用意してもらえます。皆さんも大いにリクエストを活用してください。高齢者の問題については、やはり運転免許を返上すると図書館に来られなくなるのではないかという不安はあります。今後の課題として取り上げていただきたいと思います。

#### <高橋委員>

浅田委員のお話を聞いて考えました。私はシルバー人材センターの仕事として、休日に公民館の管理をしています。本を借りられたい方が図書館へ電話をして、公民館への置き配を行うようなサービスは予算的に可能なのではないのでしょうか。市役所の配送の範囲内ということです。自宅までは郵送費など発生するため難しいかもしれませんが、公民館と図書館との連絡であれば市役所の便があります。それを利用して電話一本かけるだけで、公民館で受取ができる仕組みをご検討いただけないのでしょうか。

#### <事務局>

北部図書館が開館する前から、駅前総合案内所・中洲会館・速野会館で予約本の受取サービスを実施しています。中洲学区と速野学区は本館から遠いため、そうしたサービスが始まりました。速野会館については北部図書館ができましたので、通常の図書館としてのサービスに変わっております。図書館の職員ではない者が本を扱う場合は、プライバシー保護の観点から、本のタイトル等がわからないように袋に入れてお渡しすることにしています。会館の職員さんが名前と貸出カード番号を確認して袋を渡し、ご本人が本を取り出すという方法です。

受取場所の範囲を広げることについては、人力的な課題や、本の置き場所についての課題を解決する必要があります。特に駅前総合案内所については、流通量が多く、キャパシ

ティが限界に近い状態です。高齢者の方が増えてきているので、今のようなご意見はよくお聞きします。障害者手帳をお持ちの方については、ご自宅に本を送る郵送貸出サービスを行っています。そうでない方に関してどこまでのサービスができるのか、課題ではあります。難しい問題ですが、職員で話し合っていきたいと思います。

<岸本会長>

他にはご意見はありますか。ないようでしたら、次第の6その他の項目、事務局からお願いします。

## 6 その他

<事務局>

本日は、皆様より貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

具体的に決まっております、夏までの行事についてご案内をさせていただきます。

次回、今年度第2回目の図書館協議会の開催については10月下旬から11月上旬頃を予定しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

<岸本会長>

それでは本日議事運営に協力いただきましてありがとうございます。様々なご意見いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは進行の方事務局にお返しします。

## 7 閉会

<事務局>

岸本会長、委員の皆様、大変ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回守山市図書館協議会を閉会いたします。

本日は、誠にありがとうございました。

以上